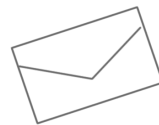




年末に渡波第二仮設住宅団地でお餅つきを行いました



2012年12月28日、石巻支援センターでは、渡波第二仮設住宅団地でお餅つきを行いました。この団地はYMCA歌の広場やお茶こプログラムを1年以上継続して行っており、住民の方々はYMCAをいつも暖かく迎えてくださいます。

今回の餅つきは大野勉氏(神戸ポートワイズメンズクラブ)の協力で実現いたしました。大野氏は被災地を度々訪問し、三陸沖を自分の足で走る「折り鶴ラン」を行い、被災地にエールを送り続けています。今回の餅つきの杵と臼は、大野氏が神戸から自家用車で持ってきてくださいました。

事前に仮設住宅に配布したチラシで、当日お手伝いをしてくれる方を募った所、当日の朝は10人ほどの仮設住宅の婦人の方々が準備を手伝って下さいました。餅の味付けについて各家庭で違い(こだわり)があり、今回の味付けをどうするか話し合いが難航する場面もありましたが、このようにそれぞれの家庭の話をするこも有意義な交流の一環であり、これこそが仮設住宅でお餅つきをさせていただいた一つの意義なのではと考えることになりました。



子どもたちも一緒に餅つき

お餅つきが始まってからは、仮設住宅の多くの方々が来てくださいました。お餅を受け取りにきた方々に「お餅をついていきませんか」と声をかけると、男性陣は気合を入れてお餅をついてくださいました。餅をつく人、返す人の元気な声が、普段は静かな仮設住宅の敷地内に響きました。

つくたてのお餅は、婦人の皆さんの手できなこ味と大根味に味付けされ、住民の方々に振舞われました。約150食をお配りすることができ、受け取りに来た皆さんに丁度配り終えることができました。

お餅つきに来られた方々からは「今もこのように来てくれることが本当にありがたい」「これでようやく年越しができる気持ちになった。本当にありがとう」を言ってくださいました。

家を失われ、日常的に不安な気持ちを抱えたままでは、年越しの気持ちになれなかったと聞いて、とても悲しい気持ちになりました。また、先の見えない仮設住宅の暮らしの中で、希望を持って日々を生きることの困難さを改めて知りました。その中でも、このように全国から被災地を応援している人が現地足を運ぶ事で、少しでも前向きな気持ちになる関わりを今後も続けていきたいと思ひます。



上：住民とワイズメンで餅つき開始

下：婦人会の皆さんが味付けをしています



東日本大震災救援復興募金

・ゆうちょ銀行(郵便振替)

振替口座:00120-7-714728

名義:公益財団法人 東京 YMCA

・銀行振り込み

みずほ銀行 神田支店 普通 1677931

三井住友銀行神田支店 普通 7656469

名義:公益財団法人 東京 YMCA

※「東日本震災」とお書き添えください。